

申3号「電気部門の変革2022」に関する申し入れ団体交渉③

5項 移管業務の契約方式について、波動業務を単価契約工事とした根拠を明らかにすること。

(組) 夏場がやっぱり事故、事象の件数が設備的な故障の件数が多くて、出勤の件数が10件を超えていた。そうすると、かえって書類作成だとか工事を起こすことに非常に負担が掛かってしまっていて、逆に負担が大きくなってしまっているなということ。予算管理の観点からすると、単価契約より検修工事のほうが毎月しゅん功もしているし、精算的に予算管理もしやすいのではないか。

(会) 検修工事はあくまでも検査であるので、異常時とか緊急時の対応というのは検査ではないので、波動業務を単契のほうで整理をしている。

6項 移管エリアにおける保守業務において緊急出勤の際に発生した材料費及び機械経費の計上について、どの契約方式の工事で処理をするのかの考え方を明らかにすること。

(組) 次年度については、材料の工種が1万円とか千円とかで反映してもらえたが、今年度についてもどのように考えていけば良いのか。また、故障修理との違いはどのようなところなのか。

(組) 今年度においても早急に設計変更をされて現場で使えるようにしてもらいたい。

(会) はい、わかりました。

(会) 故障修理については検査の中で見つけたものについては故障修理となる。緊急出勤となると大きな事象だったりとかになるので、そういったものは検査と単契の工事といったところでの違いはある。そういった区分けで使用していただきたい。

7項 移管エリアにおける非電化区間の総点検について、検修工事における数量の計上の考え方を明らかにすること。

(組) 現状は、設備数量をそのまま電力課へ上げて、そこで電力課で積算をして、その都度やっているということだが、このやり方が本来のやり方なのか、本来であればどのような上げ方が適切なのか。

(会) 非電化については、なかったというのもあって、今年度は設備数量で上げてもらった。そこは支社とギセ、TEMSとも打ち合わせをしながら決定してきた。次年度については、非電化区間の総点検という番手を作っていきたいと考えている。マニュアルの見直しは図っていく。

8項 移管業務におけるトロリ線張替計画作成について、TEMSが作成する下調書の張替推奨箇所の選定については、コスト比較結果も張替選定理由として提案できるものとする。

(組) コスト計算結果で場所を選定していく。そこがないとそもそも場所の選定を一から全部見るのかという話になる。それだとシステム化して効率的な業務のほうには乗らないのではないかと。システムを使ってコスト計算が出るからこそ効率的な業務ができる。

(会) 管理メンテナンスセンターのほうからTEMSのほうへそういったことをお願いすれば良いと思う。最終的には、技術センター、メンテナンスセンターのほうで確認をしていただくことになる。なので、TEMSから提案してもらっても良いとなる。